

令和3年度学校自己評価システムシート（県立鴻巣女子高等学校）

目指す学校像	(1) 自立した女性の育成 (2) スペシャリストの育成
--------	------------------------------

重点目標	1 学習環境の整備と事前学習等の授業改善を通して、生徒一人一人の学力を向上させる。 2 外部機関と連携しきめ細やかな指導を通して、生徒の主体的な自己実現を支援する。 3 多彩な学校行事や規律ある高校生活を通して、生徒一人一人を大切にしている指導を推進する。 4 地域との連携事業や情報発信を通して、地域に貢献する学校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	3名

学校自己評価					年度評価(2月1日現在)	
年度目標			年度評価(2月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	(現状) 学習環境づくりの指針、「授業5原則」「CLEAN THE TABLE」「朝読書」が徹底して、大半の生徒は落ちついて学習活動を行っている。また、ICT機器の環境整備も整い、オンライン授業の導入に向けた準備が進行している。 (課題) 教員のICT運用能力とそれに伴う授業力向上が必要である。また、生徒・教員の双方が、オンライン授業を円滑に実施できる校内体制の確立、ICT機器を用いた学習支援体制等、新しい取組も必要である。	授業におけるICTの活用等を通して、生徒一人一人に学科・教科ごとの具体的な目標を持たせ、学習意欲や学力を向上させる。	①学科毎に年間学習計画を説明する。(学年) 授業毎の年間学習計画を説明し各自の目標を明確にする。(授業担当) ②学期毎に振り返りを行い各自でまとめさせる。(授業担当) ③授業外の学習(課題・予習・復習)を具体的に指示して提出させる。(授業担当) ④授業評価アンケートを行い、年度内授業改善に活かす。(授業担当) ⑤各種研修会や授業公開週間等で教員間の学び合いを充実する。(複数回実施) ⑥ICTを活用した授業を実施する。(授業担当)	①③学習意欲と学力向上の意識高めた生徒の割合(前年度比1割増) ②家庭学習時間の状況(前年度比較) ④研修会等の実施状況と成果 ⑤実施回数	2学期の分散登校時にオンライン学習を実践し、各教科においてICT運用レベルが向上した。また、朝のSHR、全校集会、学校行事の際も臨機応変にズームリモート開催を行うなど、学校全体のICT運用力の向上が図られた。 ①③:学力向上の実感(73%→76%) 課題提出の自己評価(95%→95%) ②:家庭学習時間の状況(1時間以上:19%→19%) ④県教委による授業研究支援訪問や学びプロジェクト外研究員の委嘱、特別支援教育推進や新教育課程・学習評価関係など教員の指導力向上を目的とした校内研修会を実施した。	B
2	(現状) 自立した女性の育成を目指し、外部機関と連携しながら、本校の生徒現況に沿った体系的な進路指導により一定の成果を得ている。 (課題) 多様な進路に対応する進路指導が必要である。特に、四年制大学への進学実績向上に資する取組が求められている。また、保護者に対する情報発信と進路行事への参加機会の充実等、家庭連携の深化も課題である。	生徒一人一人の進路実現に向けて、適切な進路指導計画、キャリア教育を一層拡充する。	①基礎力診断テストの結果を活用して、生徒実態を把握する。(進路部・学年・授業担当) ②進路の手引きを定期的に使用して、進路行事・キャリア教育の振り返りを行う。(学年・クラス) ③進路希望調査、二者面談、三者面談を実施して個々の進路希望状況と相談を行う。(担任) ④講演会や相談会など、保護者への進路関連行事を実施する。(進路部) ⑤進学補習や就職希望者への特別講座の実施(学年・進路部)	①テスト結果の分析と活用状況 ②③進路意識を高めた生徒の割合(前年度比1割増) ④進路未決定者の割合(前年度比較) ⑤保護者の進路行事参加状況と成果 ⑥実施回数など	①基礎力診断テストの結果を三者面談で活用し、卒業後の進路や次年度選択科目の決定の参考とした。 ②進路の手引きを活用し、進路行事(ガイダンス)などで体系的な指導を行った(進路行事に積極的に参加 87%→90%) ③進路未決定者の割合(7.8%→5.2%) ④学年別懇談会において進路状況を説明する。 ⑤進学補習及び推薦入試や就職試験の面接・論文対策の指導を充実した。	B
3	(現状) 学校行事等へ、多くの生徒が主体的に参画する姿勢が伺える。また、基本的生活習慣の確立や自己管理能力の向上させる取組により、生徒の自己肯定感を高める指導を行っている。 (課題) 主権者としての意識を高める取組が必要である。特に、ネット社会のトラブル防止やマナー向上は保護者・地域からも期待されている。生徒の自己肯定感、コミュニケーション力を向上させるとともに、他者を思いやる「気付き」力を養う取組を行う。	生徒の自己管理能力、コミュニケーション力と他者を思いやる「気付き」力を育成するとともに、各種の個別支援体制を改善する。	①生徒手帳の使用方を説明して自己のスケジュール管理を徹底させる。(クラス担任) ②学校生活を中心に自己管理ができていないか、生徒手帳の記入を確認する。(クラス担任) ③各種のマナーの向上や良好な人間関係の構築、SNSトラブル等に関する講演会、学習会を実施する。(生徒指導部、在り方生き方に係る教育推進委員会) ④荷物ダイエット等、日常的に整理・整頓できるように粘り強い指導を行う。(学年) ⑤不安や悩みを持つ生徒への教育相談やカウンセリング機能を整えて実施する。(体制の整備・強化)	①②③学校生活アンケート調査結果による成果と前年度比較 ④自己管理の意識を高めた生徒の割合(前年度比1割増) ⑤各種講演会等の事後アンケート項目の肯定的回答(8割以上) ⑥個別支援に関するアンケート項目の肯定的回答(前年度比1割増)	感染防止対策を徹底し、文化祭や体育祭、修学旅行などの学校行事を大きな支障なく実施することができた。 ①学校行事(講演会など)の際に、生徒手帳を活用したメモ取りなどを指導し、自己管理能力の向上を図った。 ②非行防止に関する講演会(SNS、薬物乱用防止、交通安全)を実施し、生徒の積極的な取組や肯定的な感想など成果が見られた。 ③「CLEAN THE TABLE」や「あいさつ」に対する生徒自己評価はそれぞれ、98%と肯定的な回答が多い。 ④特別支援教育巡回支援員や本校独自のカウンセラー活用し、教育相談と特別支援教育の体制構築を行った。(悩みや不安相談する相手・場所がある: 92%→91%)	A
4	(現状) コロナ禍により、地域等の催し物・イベント参加が難しい状況が続いている。また、外部の様々な団体でオンラインを活用した取組など、新しい連携方法も検討されている。 (課題) コロナ禍のような緊急事態においても外部連携や情報発信ができる体制の構築が必要である。生徒の社会貢献意識は高いため、外部との連携を深め、WIN・WINの関係づくりに学校全体で取り組むことが課題である。	オンラインの活用などを検討し、生徒の活躍の場をさらに広げ、自己肯定感や自己有用感を高める。	①多くの生徒が地域交流や学校行事に参画できるように丁寧に粘り強く指導・支援する。(通年:特別活動部、教科担当) ②各種の体験活動、外部連携事業等の内容を見直し改善を図る。(担当) ③新規のイベント、ボランティア要請に対応、適切に参加できるように支援する(担当) ④オンラインを活用した情報発信や外部連携を研究する(通年:教務部・特活部)	①③地域交流等の実施状況と成果 ④学校行事に積極的に参加する生徒の割合(前年度比1割増) ⑤体験活動、ボランティア参加等に関するアンケート調査結果による成果(前年度比1割増) ⑥実施回数など	①鴻巣市フラーロード事業(ボランティア)、鴻巣駅東西連絡通路壁画事業(美術部)による地域連携の実施。(校外ボランティア参加:0名→30名 学校行事に積極的に参加:97%→96%) ②専門学科による出前授業の実施、保育科、家政科による保護者限定の「学習成果発表会」を実施し、好評を得た。 ③学校説明会を部活動発表の場として活用。 ④一斉送信メールの配信、HPの積極的な更新(100回)、学校通信の発行などによる情報発信。	B

学校関係者評価	
実施日	令和4年2月21日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・コロナ禍での学校経営は大変厳しかったと思うが、オンライン授業への取組等できることを着実に進めている学校の姿勢は素晴らしいと感じた。一方で、資格取得に向けた取組がやや弱い。学力向上の実感が数値的に上昇しているため、資格取得について学校で更なる啓発を行うと良い。学力向上の実感の割合が年々増加しているのは、先生方の指導の成果であると思うが、生徒の取組意識に変化がないことに対し、先生方の共通認識の基、目標値を定め、具体的方策を進めて欲しい。オンライン授業は、先生のやり方によって授業の内容に差がある「授業の質」を高める工夫が必要である。オンライン授業の実施によって、対面授業の良さがわかった。	
・コロナ禍でオープンキャンパスや企業訪問等が色々と制限され、生徒達は進路決定に苦慮していると推察する。進路の手引きを計画的に用いるなど系統的に指導し、進路行事への積極的な参加の数が伸びていて評価できる。オンラインの面接練習など、PTAや保護者が試験官役になって、サポートするのよいと思う。資格取得と進路指導を結びつけることで資格を取得しようという気持ちが高まる。また、それにより進路実現の可能性も高くなるので、家庭科技術検定以外にもいろいろな資格取得の機会を設定すると良い。	
・学校行事等が制限される中、文化祭や修学旅行等が実施できたことは良かった。あいさつに対する自己評価が高かったのは素晴らしい、自立した礼儀正しい生徒の育成がなされている成果と感じている。生徒手帳によるスケジュール管理を行うことで、いろいろな事に気付きやすくなり自己肯定感を高めることができたのは良かった。SNSによるトラブルははじめ、不登校につながる要因にもなり注意が必要であるが、その発見は難しい。生徒の悩みについて、日常の様子の変化やアンケートの中で、早期に気付き、相談などできる体制づくりとともに、他者を思いやる心の育みを継続してほしい。コロナ禍で規模は小さかったが学校行事が実施できて良かった。学校内で楽しい思い出ができたことは生徒会活動のやり甲斐を感じた。	
・各種行政イベントが中止となっている中、可能な限り地域からの依頼に対応されたことは素晴らしい。鴻巣市内に道の駅が建設予定だが、鴻巣女子高校には地域と連携して新しい鴻巣名物を作ってほしい。地域との交流の中で、生徒達のアイデアなどが採用され、若い柔軟な発想から新たな取組が生まれてくることを期待したい。コロナ禍で多くのイベント等が延期又は中止となり、同様に生徒の活動の場も限られている。鴻巣女子高校の素晴らしい、生徒の頑張りを広くPRできないことは残念で、あらゆる機会を捉え、体験活動、ボランティア活動の場を提供できるよう相互に連携を深めることが大切と考える。	

